



現在のファン・ゴッホ美術館 2015年撮影



ファン・ゴッホ美術館建設現場のフィンセント・ウィレム、1970年 ©unknown

ファン・ゴッホ美術館ってどんな場所？

オランダのアムステルダムにあるファン・ゴッホ美術館は、1973年にオープンしました。フィンセントの芸術を世界に伝えたいという家族の思いから生まれました。そして、この美術館をつくるために力をそそいだのが、弟テオとヨーの息子、フィンセント・ウィレムです。家族が受け継いだフィンセントの約700点もの作品が所蔵されていて、世界中の人が訪れる場所です。フィンセントの作品だけではなく、彼がテオに宛てた手紙や、兄弟でコレクションしたほかの画家の作品、フィンセントが集めた日本の浮世絵など、関係する作品や資料もたくさんあり、多くの研究者も集まる場所です。

ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢

[会 期] 2025年9月12日(金)ー12月21日(日)
[休 室 日] 月曜日、9月16日(火)、10月14日(火)、11月4日(火)、11月25日(火)
※9月15日(月・祝)、9月22日(月)、10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、11月24日(月・休)は開室
[開室時間] 午前9時半～午後5時半、金曜日は午後8時まで(入館は閉室の30分前まで)
[会 場] 東京都美術館 企画展示室 〒110-0007 東京都台東区上野公園8ー36
| 公 式 サ イ ト | <https://gogh2025-26.jp>
| 展 覧 会 公 式 S N S | @gogh2025_26
| お 問 い 合 わ せ | 050-5541-8600(ハローダイヤル)

主 催：東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、NHK、NHKプロモーション、東京新聞 協 賛：NISSHA
後 援：オランダ王国大使館 協 力：KLMオランダ航空
観覧料：一般 2,300円／大学生・専門学校生 1,300円／65歳以上 1,600円／18歳以下、高校生以下無料
※土日・祝日および12月16日(火)以降は日時指定予約制(当日の空きがあれば入場可)、12月12日(金)までの平日にご来場の場合は、日時指定予約は不要です。※9月中の平日は大学・専門学校生は無料
※都内の小・中・高校生を引率する教員は事前の観覧料免除申請により観覧料無料となります。
※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)は無料。
※18歳以下、高校生、大学生・専門学校生、65歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものをご提示ください。

美術館の4つの約束

- 1 走らずにゆっくり歩こう
- 2 メモを取るときは鉛筆を使おう
- 3 作品やケースにはさわらずに目で楽しもう
- 4 お話する時は小さな声で

NHK番組情報

ゴッホとアートの世界へようこそ

NHKでは会期中、ゴッホに関する様々な番組を放送します。ぜひお楽しみください。

くわしくはNHK_PRページから▶



＼アートも歌もダンスも！／



The Wakey Show

NHK Eテレ 月～金 午前7:00～7:20
再 午後5:10～5:30

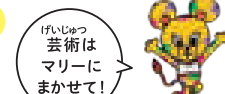
NHK Eテレで放送している、登校前の小学生に向けたおめざめ番組。ゲーム、ダンス、音楽ライブ、料理、コント、まち探検、英語の発音など、ココロとカラダをWake Upさせる楽しいコーナーが満載！

見どころ①「Wakeyのとびら」で画家ゴッホについて知ろう！

科学、自然、芸術、歴史などに詳しいキャラクターたちが、さまざまな教養を楽しみ解説するメインコーナー「Wakeyのとびら」。9月17日(水)は、ゴッホの生涯と名画誕生の裏側にせまります。お楽しみに！

見どころ②「印象派のうた」でアートの知識を学ぼう！

歌うだけでさまざまな知識を自然に覚えらる「学びうた」シリーズ。「カラーパッション」「Plants Song」に続き、9月からはゴッホにも関わりの深い芸術運動「印象派」について歌った「印象派のうた」を放送予定。



2025.9.12(金)ー12.21(日)

ジュニア
ガイド

高校生以下無料

ゴッホ

Van Gogh

展

Van Gogh's Home: The Van Gogh Museum,
The Painter's Legacy, the Family Collection, the Ongoing Story

Van
Gogh
Museum
Amsterdam

家族がつないだ

が か

画家の夢

[表紙]フィンセント・ファン・ゴッホ《画家としての自画像》 1887年12月-1888年2月
ファン・ゴッホ美術館、アムステルダム(フィンセント・ファン・ゴッホ財団)
Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

放送100年
NHK



フィンセント・ファン・ゴッホってどんな人？ (1853-1890)



フィンセント・ファン・ゴッホは、1853年にオランダで生まれました。27歳で画家を目指し、10年間で約2000枚の絵を描きましたが、生きているあいだはあまり知られていませんでした。代表作には《ひまわり》や《星月夜》があります。フィンセントの絵は、鮮やかな色づかいと力強い筆づかいが特徴です。心の病気と闘いながらも絵を描き続け、37歳で亡くなりました。

フィンセント・ファン・ゴッホ《画家としての自画像》
1887年12月-1888年2月 油彩、カンヴァス
ファン・ゴッホ美術館、アムステルダム(フィンセント・ファン・ゴッホ財団)
Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent Van Gogh Foundation)

家族がっないだフィンセントの夢

フィンセントが亡くなったあと、その作品を守り、世界に広めた人たちがいました。特に中心となって動いたのは、3人の家族でした。

弟のテオは、フィンセントが生きている間、お金の面でも気持ちの面でも支え続け、多くの作品を大切に保管していました。

テオの妻ヨーは、その作品を整理して、どうすれば多くの人に見てもらえるかを考え、行動しました。また、フィンセントからテオへ宛てられたたくさんの手紙も整理して本にもまとめました。

ヨーの努力があったからこそ、今わたしたちはフィンセントやその作品をよく知ることができます。

そしてテオとヨーの息子、フィンセント・ウィレムは、おじの作品を残していくために「フィンセント・ファン・ゴッホ財団」をつくり、

ファン・ゴッホ美術館を開くために力をつくしました。

こうして、フィンセントの絵は今も多くの人に見られ、愛されつづけています。



フィンセントの弟
テオドルス・ファン・ゴッホ
(愛称テオ、1857-1891)*1



フィンセントの義妹
ヨハナ・ファン・ゴッホ=ボンゲル
(愛称ヨー、1862-1925)*1



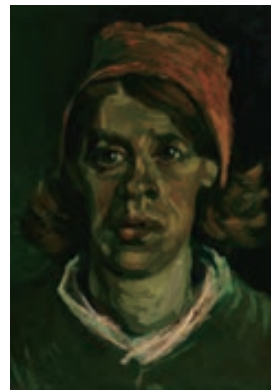
*1 Credits of the photos: Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent Van Gogh Foundation)
*2 ©: unknown

フィンセントの甥
フィンセント・ウィレム・ファン・ゴッホ
(愛称エンジニア、1890-1978)*2



画家フィンセント・ファン・ゴッホの足跡をたどろう

1 オランダ



フィンセント・ファン・ゴッホ《女性の顔》1885年4月 油彩、カンヴァス

はじまりの場所

フィンセントは1853年オランダに生まれました。画家になろうと決めたのは27歳のときでした。最初の3年間はスケッチの練習をたくさんし、その後油絵を描き始めます。農民の絵をよく描き、この絵もその一つです。赤や緑の色の組み合わせなど、暗い色の中にも工夫のあとが見えます。

2 パリ 新しいスタイルと出会う街



フィンセント・ファン・ゴッホ《モンマルトル：風車と墓園》1887年3-4月 油彩、カンヴァス

1886年、フランスのパリに移り住みます。自分の絵が時代に合っていないと気づき、明るい色や新しい描き方を学んで、新しいスタイルを見つけました。フィンセントは大都会にいても、自然のあるモンマルトルを好み、この絵では春の畑で働く人々を、明るい色でやさしく描いています。

3 アルル 光と色を見つけた地



フィンセント・ファン・ゴッホ《種まく人》1888年11月 油彩、カンヴァス

1888年、南フランスのアルルへ引っ越し、南フランスのまばゆい光とあざやかな色彩を体験して、色づかいや筆づかいが力強くなりました。この絵では、画家ミレーの《種まく人》をまねて、自分なりの表現で工夫し、秋の夕暮れをすずかに描いています。

4 サン＝レミ 心と向き合った場所



フィンセント・ファン・ゴッホ《オリーブ園》1889年11月 油彩、カンヴァス

1889年にはサン＝レミの療養院に入院しますが、絵を描き続け、独自の表現を完成させます。オリーブを南フランスを表す木として、オリーブ園の絵をたくさん描きました。テオ宛ての手紙にも、寒くてもきれいな日ざしの中で作品を描いたことを書いています。この絵は、オリーブの木がリズムよくならび、短い筆の線がたくさん使われて描かれています。

5 オーヴェール＝シュル＝オワーズ

最後の筆あと

1890年、フィンセントはパリ近くの町オーヴェールへ移り住みます。新しい表現に挑戦し、この作品ではわらぶき屋根の家と人々を力強い筆づかいで描きました。心の病気に苦しみ、同年7月、自ら命をたちます。絵を描いたのは約10年間ですが、多くの作品がファン・ゴッホ美術館にのこされています。



フィンセント・ファン・ゴッホ《農家》1890年5-6月 油彩、カンヴァス

